

食育に 市独自の取り組みを！

石井 めぐみ 議員

問 我孫子市は朝食レシピコンクールを行い、親子で朝食の重要性について考える機会をつくった。香川県綾川町は、お弁当の日をつくり、自分のため、また誰かのためにという気持ちを育てる事業を行っている。当市でも地場産物を用いた食育コンテストを考えては。

健康福祉部次長 食育については「スマートウエルネスシティとりで」の推進の中で位置付けをして、各セクションでやっているものを整理し、それから具体の事業をやっていきたいと考えている。それらの事例なども参考に進めたい。

問 地産地消食育コンクールなどを行うことにより、親子の絆を深めることができると考える。子どもたちが地場産物を使用した食育のメニューを考え調理すること、食生活に関心を持ち、生産者について理解を深め、さらには郷土愛につながると思うが。

市長 いい提案だと思おうので考えていきたい。

問 当市では、離乳食指導が4カ月健診の中で15分ぐらい。離乳食をいつから始めたらいいのか、何を食べ

させたらいいのか、悩むのが大半である。離乳食の事業を4カ月健診等に絡めるのではなく、1つの事業として設けるべきだと考えるが。

健康福祉部次長 離乳食が始まる6カ月ぐらいに力を入れてはどうかという話を保健師とした。食べる食材だけではなく、離乳食を与える方法やタイミングなど細かく話ができる機会を設けたい。

第三次救急医療体制の構築を！

関戸 勇 議員

問 取手・竜ヶ崎保健医療圏の中に第三次救急医療体制(※)の病院がない。重篤な患者を受け入れる救命救急センターが欠かせないが、市の考えは。

健康福祉部次長 第三次救急医療体制は、100万人に1カ所以上という基準。県は基準では3カ所以上ということ、現在6カ所とされている。筑波メディカルセンター病院(つくば市)を活用して対応している。

問 県南地域は交通事故も多く、高齢化に伴う重篤患者も出る地域であるから、(救命救急センターを補完する)地域救命センターも考えられる。市民の命を一刻も早く守る体制を目指し、地域救命センターも視

野に入れていただきたいと思うが。

健康福祉部次長 JAとりで医療センターに地域救命センターの整備計画を聞いたところ、脳外科のスタッフはそろっているが、心臓血管外科については、専門医と設備がないため難しいとのことであった。ただ、東京医科歯科大学に医師の確保の協力について申し出をしているとのこと。

問 市民の命に一刻も早く対応し、守るのは、第三次救急医療体制によって決まる。県に声かけをするなど、構築に向けて一層の努力をしてほしいと思うが。

健康福祉部次長 県に要望していききたい。なお、11月1日から千葉北総病院(千葉県印西市)のドクターヘリを利用できるようになった。

※救急医療体制：患者の重症度に応じ、初期、第二次、第三次救急医療の3段階体制をとっている。第三次救急医療は、最も重篤な患者に対応する体制のため、次の医療機能が求められる。(1) 第二次救急医療で対応困難な複数の診療科目にわたる重篤な救急患者に24時間365日体制での高度医療の総合的な提供。(2) 初期救急医療機関、第二次救急医療機関、搬送機関と連携を図り、救急患者の受け入れ、転送を行う。

公共施設の管理

結城 繁 議員

問 今回の議案で出されている指定管理者が前回と同様である。指定管理ガイドラインでは原則公募だが、これは公募した結果なのか。

政策推進部長 今回の14施設、全て非公募である。

問 非公募にした理由は。

答 文化事業団の設置理由が、市民会館と福祉会館の管理運営と、安い単価で良い映画を見ることが目的であるため非公募とした。

健康福祉部次長 高齢者と障害者の福祉施設については、施設の職員と施設利用者との人間関係の信頼性が求められる分野であるという判断が一番大きい理由であり、社会福祉協議会と社会福祉事業団を非公募とした。

問 指定管理ガイドラインでは指定管理を順次増やしていくことになっているが、政策推進部長 機会があればできるだけ増やしていく。民間のノウハウとコストの両方を満たすものでなくはないかと思う。施設の性格により両方満たしたものは順次入れていききたいと考えている。

問 平成23年に公共施設マネジメント白書を作成しているが、これからどのような形でマネジメントを進めていくのか。

答 白書を今回作成したところにより、施設の本当の劣化度が客観的に判断できた。今年度で施設のカルテができる。今までは違った判断基準ができるので大いに利用し、予算の査定のときにも財政課と協議をしながら、効率的な財政運営ができるのではと考えている。

ゆるキャラで 市のPRを

山野井 隆 議員



市制40周年記念マスコットキャラクター「トトリ」

問 トトリは、市制40周年の記念キャラクターということだが、ゆるキャラは連日マスコミで取り上げられている。ゆるキャラグランプリ全国大会は、2010年が169体のエントリーだったが、今回1581体がエントリーしている。これは、1市町村1体でな

ればいけない決まりもないので、トトリに縛られることなく、市を十分PRできるキャラクターの誕生を、例えば小中学校の生徒にデザイン公募をかけ、市の中でゆるキャラグランプリを行って盛り上げていったらどうかと思うが。

政策推進部次長 ゆるキャラの製作費は40〜60万はすると理解している。市が本気になって作るとなると、ある程度の効果を狙って、何かの契機にと考えられるが、現時点でトトリを作り直す考えはない。

問 ゆるキャラをはやらせようと幾つかの実行委員会が競って行く中で、市がフォロワーしていく。そして、盛り上がってくれば、予算を投じるなど本格的に乗り出す形はあり得るか。

市長 地域の特性を表し、明るい未来につながるシンボリックなものは何かというところの検討協議がまだまだ十分ではないと思っ

ている。「くまモン」など成功しているゆるキャラを見ると、どの部分は何を意味しているという主張が込められている。そういうものを作って、市の目指すものやみんなの力を引っ張っていくことをするというようなことなので、市制45周年に向けての宿題として引き取りたい。